

# 誰もが安心して妊娠・出産できる社会をめざして

ユニット名

女性の健康と母性看護学

ユニット代表者 医学医療系 教授 江守 陽子

◆ユニット構成員 総数5名(教員5名/ポストク0名/他機関0名)



キーワード 女性の健康、周産期看護、セクシャリティ、母子関係、母子保健

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/nursing-sci/maternity/link.html>

次世代をになう若い人々が安心して妊娠・出産できる環境であることは、どんな社会においても非常に重要な要素です。まして、現代日本のような少子高齢化社会であれば、その重要性に疑いの余地はないでしょう。リサーチユニット「女性の健康と母性看護学」は、生まれてくる子どもが誰からも愛され健やかに成長できる環境をつくることを目指し、女性の健康課題やその看護方法の解明に取り組んでいます。

られるような公的補助があります。しかし、ごく稀に、ほとんど健診を受けずに出産される方がおられます。このようなケースを飛び込み分娩と呼び、母子の健康はもちろん、出産後の親子関係などにも関係していると考えられています(図2)。

## 飛び込み分娩に至る背景には何があるのか

私たちはこの飛び込み分娩について、その背後にある女性のSESや、出産後の母子の健康および胎児感情への影響について研究を行っています。具体的には、飛び込み分娩を経験された女性へのインタビューや、過去の研究論文の見直しなどの研究手法を用いました。その結果、飛び込み分娩になった(妊婦健診に行かなかった、または行くのがおくれた)背景には、経済的理由に加え、妊娠に気づかなかつたなどの妊婦への教育に関わる問題も存在することが分かってきたのです(図3)。

| 理由                    | 報告数(4邦文献中) |
|-----------------------|------------|
| 経済的理由                 | 19         |
| 妊娠に気がつかなかった           | 17         |
| 行かなくていいと思った・気づいていたが放置 | 11         |
| 産むかどうか迷っていたから         | 10         |
| 多忙・仕事が休めなかった          | 8          |
| 相談相手・パートナーがいなかった      | 8          |
| どうしていいか分からなかった        | 3          |

図3：飛び込み分娩に至った理由(抜粋)

妊婦はもちろん妊娠前の若い人達への教育・情報提供の充実を行っていくうえで、養護教諭を含め、妊娠初期から退院後まで妊婦と触れ合う機会が多い看護職の存在は重要です。私たちは、看護職が妊娠以前から出産後の支援にもかわることで、飛び込み分娩の予防教育や、出産後の長期的支援が可能になるのではないかと考えています。

## 妊娠・出産に関わるリスクの存在



図1：妊娠・出産は本来とても幸せなライフイベント

妊娠・出産は、人生のなかでも最も幸せな出来事のひとつと言って良いでしょう(図1)。しかし同時に、妊娠・出産には女性の健康状態や社会経済的地位(SES, socioeconomic status:学歴、職業、所得、就業状況、身分などをさす言葉)と関係するリスクも存在するのです。

皆さんは「飛び込み分娩」という言葉を耳にされたことはあるでしょうか。妊娠中の女性には、全員が概ね14回の妊婦健診を受け

### 【飛び込み分娩】

妊娠中一度も(あるいは1、2回しか)産科医療機関を受診せず、分娩するよう段になって初めて医療機関を訪れるようなケース



図2：飛び込み分娩と医学的/社会経済的リスクの関係

## 社会への貢献・実績

- 安心して妊娠・出産できる環境作りのための母子保健制度改革
- 妊婦への新しい情報提供・教育のあり方の提言
- 思春期男女に対する性教育講演・ピアグループ活動の支援